資料３－１

日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野 ： 国内 ・ 海外

日本語教育の対象者：「日系人・年少者」

【Ⅱ】日本語教育人材の役割 ： 日本語指導者 ・ 日本語指導補助者 ・ コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	名称：独立行政法人国際協力機構
	主な日本語教育事業 〇日系研修
2. 養成・研修概要	1）研修・講座の名称： 日系継承教育（教師育成Ⅰ）
	2）研修の目的： 継承教育に関する基礎的な知識（ことば、文化、歴史（移住学習を含む））および指導技術を習得し、現地で実践・普及させる。
	3）研修対象・受講資格： ・日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師（継承教育を実践する教師を育成することを目的とした研修であるため） ・実務経験 1～3 年程度または教授時間 300 時間以下 ・日本語能力試験 N4（旧 3 級）程度（全講義、日本語で実施されるため）
	4）受講方法：通信（来日前にブラジル日本語センターを拠点として実施）・合宿
	5）研修実施時期及び期間：年 1 回，9 月開講，5 ヶ月（9 月より 2.5 ヶ月の通信教育、本邦研修は 12 月より 2.5 ヶ月）
	6）研修実施時間数：318 時間（本邦研修）
	7）受講料：JICA 負担
	8）教育実習・実践演習等の有無：有 23 時間（模擬授業形式）
	9）修了要件：原則として全過程に参加していること。
	10）評価及び認定の方法：出欠及び報告書の提出、最終報告発表により判断。
	11）受講修了者の進路（活動分野）：現地日系社会の日系学校に継続して勤務。
3. 養成・研修の科目一覧	科目（指導項目）一覧を記載してください。その際，次ページの平成１２年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する（もしくは内容的に近い）か，番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。 既成のシートに番号・★を追記いただくことでも構いません。 例）【理論編】ファシリテーション（★） 【実践編】フィールドワーク実習（⑩）
	【通信】 ① 文法 8 時間（⑩） ② 漢字・語彙 8 時間（⑩） ③ 作文 6 時間（⑩） ④ 読解 30 時間（⑩） ⑤ 教授法・教案 10 時間（⑩） ⑥ 副教材 10 時間（⑩） ⑦ 対照言語学（⑩） 【本邦研修】 別添資料を参照（資料に番号を追記）

4. 養成・研修の内容	平成 12 年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの ※実施していないものを取り消し線で消してください。（例，~~文明，哲学~~） 追加科目を【　】に記載してください。			
	領域	区分	区分（①～⑯）	内容
	社会・文化地域に関わる領域	社会・文化・地域	①世界と日本	歴史，文化，文明，社会，教育，哲学，国際関係，日本事情，日本文学【　】
			②異文化接触	国際協力，文化交流，留学生政策，移民・難民政策，研修生受入政策，外国人児童生徒，帰国児童生徒，地域協力，~~精神衛生~~【　】
			③日本語教育の歴史と現状	日本語教育史，言語政策，教員養成，学習者の多様化，教育哲学，学習者の推移，日本語試験，各国語試験，世界各地域の日本語教育事情，日本各地域の日本語教育事情【中南米における継承日本語教育】
		言語と社会	④言語と社会の関係	ことばと文化，社会言語学，社会文化能力，言語接触，言語管理，言語政策，言語社会学，教育哲学，教育社会学，教育制度【　】
			⑤言語使用と社会	言語変種，ジェンダー差・世代差，地域言語，待遇・ポライトネス，言語・非言語行動，コミュニケーション・ストラテジー，地域生活関連情報【　】
			⑥異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと社会	異文化需要・適応，言語・文化相対主義，自文化（自民族）中心主義，アイデンティティ，多文化主義，異文化間トレランス，言語イデオロギー，言語政策【　】
		言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解，談話理解，予測・推測能力，記憶，視点，言語学習【　】
			⑧言語習得・発達	幼児言語，習得過程（第一言語・第二言語），中間言語，言語喪失，バイリンガリズム，学習過程，学習者タイプ，学習ストラテジー【　】
			⑨異文化理解と心理	異文化間心理学，社会的スキル，集団主義，教育心理，日本語の学習・教育の情意的側面【　】
	教育に関わる領域	言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識，実践的能力，自己点検能力，カリキュラム，コースデザイン，教室活動，教授法，評価法，学習者情報，教育実習，教育環境，地域別・年代別日本語教育法，教育情報，ニーズ分析，誤用分析，教材分析・開発【　】
			⑪異文化間教育・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育	異文化間教育，多文化教育，国際・比較教育，国際理解教育，コミュニケーション教育，スピーチ・コミュニケーション，異文化コミュニケーション訓練，開発コミュニケーション，異文化マネージメント，異文化心理，教育心理，言語間対照，学習者の権利【　】
			⑫言語教育と情報	教材開発，教材選択，教育工学，システム工学，統計処理，メディアリテラシー，情報リテラシー，マルチメディア【　】

	言語に関わる領域	言語	⑬言語の構造一般	一般言語学，世界の諸言語，言語の類型，音声的類型，形態（語彙）的類型，統計的類型，意味論的類型，語用論的類型，音声と文法 【　　】
			⑭日本語の構造	日本語の系統，日本語の構造，音韻体系，形態・語彙体系，文法体系，意味体系，語用論的規範，表記，日本語史 【　　】
			⑮言語研究	理論言語学，応用言語学，情報学，社会言語学，心理言語学，認知言語学，言語地理学，対象言語学，計量言語学，歴史言語学，コミュニケーション学 【　　】
			⑯コミュニケーション能力	受容・理解能力，表出能力，言語運用能力，談話構成能力，議論能力，社会文化能力，対人関係能力，異文化調整能力 【　　】
※3領域5区分以外については，こちらに記載してください。	その他	日系社会	⑰日系日本語学校	移住学習、日系アイデンティティ

5. 特徴的な内容	貴団体で養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して，特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら，記載をお願いします。
	・中南米の日系社会における継承日本語教育に係る指導が求められる。 ・言語指導だけでなく、移住に係る学習や日系団体のイベントへの参画を通じて、コミュニティの活性化・日本語理解を図ることも期待され、学習者の日系人としてのアイデンティティ形成に携わる。 ・主な対象者は年少者である。 ・年少者向けの教材作成が求められる。 ・日本文化指導が求められる。

6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力 ※御参考：平成 12 年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添	1）資質　2）知識　3）能力　について平成 12 年報告に示された，下記内容について該当する場合は，□に☑を付けてください。また，活動分野及び役割別の 1）資質　2）知識　3）能力　については，□以下に記載をお願いします。 **1）資質** ☑日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している ☑鋭い言語感覚を有している □国際的な活動を行う教育者として，豊かな国際的感覚を有している □国際的な活動を行う教育者として，豊かな人間性を備えている □日本語教育の専門家として，自らの職業の専門性を有している ☑日本語教育の専門家として，自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している ・日系日本語学校教師として日系人のアイデンティティについての自覚を有している ・ **2）知識** ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識 ☑対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識 ☑言語使用に関する知識 ☑言語発達に関する知識 ☑言語の習得過程に関する知識 ☑日本の教育制度に関する知識 ☑日本の歴史・文化事情に関する知識 ☑諸外国の教育制度に関する知識 ☑諸外国に歴史・文化事情に関する知識 ・移住に関する知識 ・ **3）能力** ☑日本語を正確に理解し的確に運用できる能力 ☑言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力 ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識，対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識，言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力 ☑学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等を分析する能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力

7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準	・講義内容について専門的な知見を有すること。
8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果	・日本語教育に必要な文型・文法を整理することができる。 ・日本語教育に必要な文型・文法の基礎を理解し、指導することができる。 ・継承日本語教育に携わる教師として移住の歴史を伝えることができる。 ・保護者や地域との連携の必要性を理解し、現地日本語学校の存在意義を認識することができる。 ・年齢に応じた学習者への効果的な日本語指導・教室活動を理解し、実践できる。 ・初級段階における学習項目を把握し、指導に必要な学習事項の理解及び授業設計ができる。 ・継承教育における日本文化継承の意義を理解することができる。 ・現地での研修会の講師となり運営することができる。
9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題（改善を検討したい点）と展望	
10. その他 （人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら，記載してください。）	

資料３－２

日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野 ： 国内 ・ 海外

日本語教育の対象者：「日系人・年少者」

【Ⅱ】日本語教育人材の役割 ： 日本語指導者 ・ 日本語指導補助者 ・ コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	名称：独立行政法人国際協力機構
	主な日本語教育事業 〇日系研修
2. 養成・研修概要	1）研修・講座の名称： 日系継承教育（教師育成Ⅱ）
	2）研修の目的及び育成しようとしている人物像： 継承教育に関する知識（ことば、文化、歴史（移住学習を含む））および指導技術を習得する。
	3）研修対象・受講資格： ・日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師（継承教育を実践する教師を育成することを目的とした研修であるため） ・経験年数 5 年以上または教授時間 500 時間以上 ・日本語能力試験N2（旧 2 級）程度以上の能力を有すること（初級後半の指導法習得を目標とするためそれ以上の日本語力が必要）
	4）受講方法：合宿
	5）研修実施時期及び期間：年 1 回，12 月開講，3 ヵ月
	6）研修実施時間数：330 時間
	7）受講料：JICA 負担
	8）教育実習・実践演習等の有無：有 17 時間（模擬授業形式）
	9）修了要件：原則として全過程に参加していること。
	10）評価及び認定の方法：出欠及び報告書の提出、最終報告発表により判断。
	11）受講修了者の進路（活動分野）：現地日系社会の日系学校に継続して勤務。
3. 養成・研修の科目一覧	科目（指導項目）一覧を記載してください。その際，次ページの平成１２年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する（もしくは内容的に近い）か，番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。 既成のシートに番号・★を追記いただくことでも構いません。 例）【理論編】 ファシリテーション（★） 【実践編】フィールドワーク実習（⑩）
	別添資料を参照（資料に番号を追記）

資料３－２

4. 養成・研修の内容	平成 12 年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの ※実施していないものを取り消し線で消してください。（例，~~文明，哲学~~） 追加科目を【　】に記載してください。			
	領域	区分	区分（①～⑯）	内容
	社会・文化地域に関わる領域	社会・文化・地域	①世界と日本	歴史，文化，文明，社会，教育，哲学，国際関係，日本事情，日本文学【　】
			②異文化接触	国際協力，文化交流，留学生政策，移民・難民政策，研修生受入政策，外国人児童生徒，帰国児童生徒，地域協力，~~精神衛生~~【　】
			③日本語教育の歴史と現状	日本語教育史，言語政策，教員養成，学習者の多様化，教育哲学，学習者の推移，日本語試験，各国語試験，世界各地域の日本語教育事情，日本各地域の日本語教育事情【中南米における継承日本語教育】
		言語と社会	④言語と社会の関係	ことばと文化，社会言語学，社会文化能力，言語接触，言語管理，言語政策，言語社会学，教育哲学，教育社会学，教育制度【　】
			⑤言語使用と社会	言語変種，ジェンダー差・世代差，地域言語，待遇・ポライトネス，言語・非言語行動，コミュニケーション・ストラテジー，地域生活関連情報【　】
			⑥異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと社会	異文化需要・適応，言語・文化相対主義，自文化（自民族）中心主義，アイデンティティ，多文化主義，異文化間トレランス，言語イデオロギー，言語政策【　】
		言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解，談話理解，予測・推測能力，記憶，視点，言語学習【　】
			⑧言語習得・発達	幼児言語，習得過程（第一言語・第二言語），中間言語，言語喪失，バイリンガリズム，学習過程，学習者タイプ，学習ストラテジー【　】
			⑨異文化理解と心理	異文化間心理学，社会的スキル，集団主義，教育心理，日本語の学習・教育の情意的側面【　】
	教育に関わる領域	言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識，実践的能力，自己点検能力，カリキュラム，コースデザイン，教室活動，教授法，評価法，学習者情報，教育実習，教育環境，地域別・年代別日本語教育法，教育情報，ニーズ分析，誤用分析，教材分析・開発【　】
			⑪異文化間教育・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育	異文化間教育，多文化教育，国際・比較教育，国際理解教育，コミュニケーション教育，スピーチ・コミュニケーション，異文化コミュニケーション訓練，開発コミュニケーション，異文化マネージメント，異文化心理，教育心理，言語間対照，学習者の権利【　】
			⑫言語教育と情報	教材開発，教材選択，教育工学，システム工学，統計処理，メディアリテラシー，情報リテラシー，マルチメディア【　】

資料３－２

	言語に関わる領域	言語	⑬言語の構造一般	一般言語学，世界の諸言語，言語の類型，音声的類型，形態（語彙）的類型，統計的類型，意味論的類型，語用論的類型，音声と文法 【　　】
			⑭日本語の構造	日本語の系統，日本語の構造，音韻体系，形態・語彙体系，文法体系，意味体系，語用論的規範，表記，日本語史 【　　】
			⑮言語研究	理論言語学，応用言語学，情報学，社会言語学，心理言語学，認知言語学，言語地理学，対象言語学，計量言語学，歴史言語学，コミュニケーション学 【　　】
			⑯コミュニケーション能力	受容・理解能力，表出能力，言語運用能力，談話構成能力，議論能力，社会文化能力，対人関係能力，異文化調整能力 【　　】
※3領域5区分以外については，こちらに記載してください。	その他	日系社会	⑰日系日本語学校	移住学習、日系アイデンティティ

5. 特徴的な内容	貴団体で養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して，特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら，記載をお願いします。
	・中南米の日系社会における継承日本語教育に係る指導が求められる。 ・言語指導だけでなく、移住に係る学習や日系団体のイベントへの参画を通じて、コミュニティの活性化・日本語理解を図ることも期待され、学習者の日系人としてのアイデンティティ形成に携わる。 ・主な対象者は年少者である。 ・年少者向けの教材作成が求められる。 ・日本文化指導が求められる。

資料３－２

6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力 ※御参考：平成 12 年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添	1）資質　2）知識　3）能力　について平成 12 年報告に示された，下記内容について該当する場合は，□に☑を付けてください。また，活動分野及び役割別の 1）資質　2）知識　3）能力　については，□以下に記載をお願いします。 **1）資質** ☑日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している ☑鋭い言語感覚を有している □国際的な活動を行う教育者として，豊かな国際的感覚を有している □国際的な活動を行う教育者として，豊かな人間性を備えている □日本語教育の専門家として，自らの職業の専門性を有している ☑日本語教育の専門家として，自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している ・日系日本語学校教師として日系人のアイデンティティについての自覚を有している ・ **2）知識** ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識 ☑対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識 ☑言語使用に関する知識 ☑言語発達に関する知識 ☑言語の習得過程に関する知識 ☑日本の教育制度に関する知識 ☑日本の歴史・文化事情に関する知識 ☑諸外国の教育制度に関する知識 ☑諸外国に歴史・文化事情に関する知識 ・移住に関する知識 ・ **3）能力** ☑日本語を正確に理解し的確に運用できる能力 ☑言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力 ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識，対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識，言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力 ☑学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等を分析する能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力

7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準	・講義内容について専門的な知見を有すること。
8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果	・日本語教育に必要な文型・文法を整理することができる。 ・日本語教育に必要な文型・文法の基礎を理解し、指導することができる。 ・継承日本語教育に携わる教師として移住の歴史を伝えることができる。 ・保護者や地域との連携の必要性を理解し、現地日本語学校の存在意義を認識することができる。 ・年齢に応じた学習者への効果的な日本語指導・教室活動を理解し、実践できる。 ・初級段階における学習項目を把握し、指導に必要な学習事項の理解及び授業設計ができる。 ・継承教育における日本文化継承の意義を理解することができる。 ・現地での研修会の講師となり運営することができる。
9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題（改善を検討したい点）と展望	
10. その他 （人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら，記載してください。）	

資料３－３

日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野 ： 国内 ・ 海外

日本語教育の対象者：「日系人・教師」

【Ⅱ】日本語教育人材の役割 ： 日本語指導者 ・ 日本語指導補助者 ・ コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	名称：独立行政法人国際協力機構
	主な日本語教育事業 〇日系研修
2. 養成・研修概要	1）研修・講座の名称： 日系継承教育（指導者育成）
	2）研修の目的及び育成しようとしている人物像： 継承教育を担う教師として継承教育に関する知識を深めるとともに、養成・育成講師としての後進教師に対する指導方法に関する知識・技術および養成・育成コースのためのコースデザインの方法を習得する。
	3）研修対象・受講資格： ・現地教師養成、育成に携わる講師またはその候補者（帰国後の研修生か還元が期待されるため） ・実務経験 7 年以上もしくは教授時間 700 時間以上（専門的な研修内容であり、後進教師を育成する人材となることを期待されるため） ・日本語能力試験 N1（旧 1 級）以上 ・来日時の年齢が 60 歳以下であること（ある程度の経験年数が必要なため）
	4）受講方法：合宿
	5）研修実施時期及び期間：年 1 回，1 月開講，2 ヶ月
	6）研修実施時間数：198 時間
	7）受講料：JICA 負担
	8）教育実習・実践演習等の有無：有 16 時間（模擬授業形式）
	9）修了要件：原則として全過程に参加しているっこと。
	10）評価及び認定の方法：出欠及び報告書提出、最終報告の確認により判断。
	11）受講修了者の進路（活動分野）：現地日系社会の日系学校に継続して勤務。
3. 養成・研修の科目一覧	科目（指導項目）一覧を記載してください。その際，次ページの平成１２年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する（もしくは内容的に近い）か，番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。 既成のシートに番号・★を追記いただくことでも構いません。 例）【理論編】 ファシリテーション（★） 【実践編】フィールドワーク実習（⑩）
	別添資料を参照（資料に番号を追記）

4. 養成・研修の内容	平成 12 年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの ※実施していないものを取り消し線で消してください。（例，~~文明，哲学~~） 追加科目を【　】に記載してください。			
	領域	区分	区分（①～⑯）	内容
	社会・文化地域に関わる領域	社会・文化・地域	①世界と日本	歴史，文化，文明，社会，教育，哲学，国際関係，日本事情，日本文学【　】
			②異文化接触	国際協力，文化交流，留学生政策，移民・難民政策，研修生受入政策，外国人児童生徒，帰国児童生徒，地域協力，~~精神衛生~~【　】
			③日本語教育の歴史と現状	日本語教育史，言語政策，教員養成，学習者の多様化，教育哲学，学習者の推移，日本語試験，各国語試験，世界各地域の日本語教育事情，日本各地域の日本語教育事情【中南米における継承日本語教育】
		言語と社会	④言語と社会の関係	ことばと文化，社会言語学，社会文化能力，言語接触，言語管理，言語政策，言語社会学，教育哲学，教育社会学，教育制度【　】
			⑤言語使用と社会	言語変種，ジェンダー差・世代差，地域言語，待遇・ポライトネス，言語・非言語行動，コミュニケーション・ストラテジー，地域生活関連情報【　】
			⑥異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと社会	異文化需要・適応，言語・文化相対主義，自文化（自民族）中心主義，アイデンティティ，多文化主義，異文化間トレランス，言語イデオロギー，言語政策【　】
		言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解，談話理解，予測・推測能力，記憶，視点，言語学習【　】
			⑧言語習得・発達	幼児言語，習得過程（第一言語・第二言語），中間言語，言語喪失，バイリンガリズム，学習過程，学習者タイプ，学習ストラテジー【　】
			⑨異文化理解と心理	異文化間心理学，社会的スキル，集団主義，教育心理，日本語の学習・教育の情意的側面【　】
	教育に関わる領域	言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識，実践的能力，自己点検能力，カリキュラム，コースデザイン，教室活動，教授法，評価法，学習者情報，教育実習，教育環境，地域別・年代別日本語教育法，教育情報，ニーズ分析，誤用分析，教材分析・開発【　】
			⑪異文化間教育・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育	異文化間教育，多文化教育，国際・比較教育，国際理解教育，コミュニケーション教育，スピーチ・コミュニケーション，異文化コミュニケーション訓練，開発コミュニケーション，異文化マネージメント，異文化心理，教育心理，言語間対照，学習者の権利【　】
			⑫言語教育と情報	教材開発，教材選択，教育工学，システム工学，統計処理，メディアリテラシー，情報リテラシー，マルチメディア【　】

	言語に関わる領域	言語	⑬言語の構造一般	一般言語学，世界の諸言語，言語の類型，音声的類型，形態（語彙）的類型，統計的類型，意味論的類型，語用論的類型，音声と文法 【　　】
			⑭日本語の構造	日本語の系統，日本語の構造，音韻体系，形態・語彙体系，文法体系，意味体系，語用論的規範，表記，日本語史 【　　】
			⑮言語研究	理論言語学，応用言語学，情報学，社会言語学，心理言語学，認知言語学，言語地理学，対象言語学，計量言語学，歴史言語学，コミュニケーション学 【　　】
			⑯コミュニケーション能力	受容・理解能力，表出能力，言語運用能力，談話構成能力，議論能力，社会文化能力，対人関係能力，異文化調整能力 【　　】
※3領域5区分以外については，こちらに記載してください。	その他	日系社会	⑰日系日本語学校	移住学習、日系アイデンティティ

5. 特徴的な内容	貴団体で養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して，特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら，記載をお願いします。
	・中南米の日系社会における継承日本語教育に係る指導が求められる。 ・移住に係る学習や日系団体のイベントへの参画を通じて、コミュニティの活性化・日本語理解を図ることも期待され、学習者の日系人としてのアイデンティティ形成に携わる。 ・主な対象者は教師である。 ・日系継承教育を行う教師育成の必要性を意識づけることが求められる。

6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力 ※御参考：平成 12 年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添	1）資質　2）知識　3）能力　について平成 12 年報告に示された，下記内容について該当する場合は，□に☑を付けてください。また，活動分野及び役割別の 1）資質　2）知識　3）能力　については，□以下に記載をお願いします。 **1）資質** ☑日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している ☑鋭い言語感覚を有している □国際的な活動を行う教育者として，豊かな国際的感覚を有している □国際的な活動を行う教育者として，豊かな人間性を備えている ☑日本語教育の専門家として，自らの職業の専門性を有している ☑日本語教育の専門家として，自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している ・日系日本語学校教師として日系人のアイデンティティについての自覚を有している ・ **2）知識** ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識 ☑対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識 ☑言語使用に関する知識 ☑言語発達に関する知識 ☑言語の習得過程に関する知識 ☑日本の教育制度に関する知識 ☑日本の歴史・文化事情に関する知識 ☑諸外国の教育制度に関する知識 ☑諸外国に歴史・文化事情に関する知識 ・移住に関する知識 ・ **3）能力** ☑日本語を正確に理解し的確に運用できる能力 ☑言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力 ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識，対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識，言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力 ☑学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等を分析する能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力 ・ ・

7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準	・講義内容について専門的な知見を有すること。
8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果	・「継承日本語教育」「普及のための日本語教育」「国語教育」の共通点と相違点を理解することができる。 ・年齢に応じた学習者への効果的な日本語指導・教室活動を理解できる。 ・教師養成講座での指導者としての指導技術を習得することができる。 ・それぞれの国・地域における日系継承教育、日系継承教育を取り巻く状況を共有し、現場で求められていることを考察し、ニーズ分析、ニーズ評価、現実に即したコースデザインを作成することができる。 ・現地での研修会の講師となり運営することができる。
9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題（改善を検討したい点）と展望	
10. その他 （人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら，記載してください。）	

資料３－４

日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野 ： 国内 ・ 海外

日本語教育の対象者：「日系人・年少者」

【Ⅱ】日本語教育人材の役割 ： 日本語指導者 ・ 日本語指導補助者 ・ コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	名称：独立行政法人国際協力機構
	主な日本語教育事業 〇ボランティア事業 〇日系社会支援
2. 養成・研修概要	1）研修・講座の名称：日系日本語学校教師　技術補完研修
	2）研修の目的：講義、演習、グループ研究を通して「継承日本語教育」についての知識及び技術を習得し、日系社会ボランティアとしての役割を理解する。
	3）研修対象・受講資格：日系社会ボランティア日系日本語学校教師職種　合格者
	4）受講方法：通学・合宿（受講者の住居距離による）
	5）研修実施時期及び期間：年 1 回，3 月開講，12 日間
	6）研修実施時間数：57 時間
	7）受講料：JICA 負担
	8）教育実習・実践演習等の有無：有り
	9）修了要件：全日程修了し、レポートを提出
	10）評価及び認定の方法：修了の有無及びレポート確認
	11）受講修了者の進路（活動分野）：各々の任国へ赴任し、日系日本語学校教師として活動する
3. 養成・研修の科目一覧	科目（指導項目）一覧を記載してください。その際，次ページの平成１２年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する（もしくは内容的に近い）か，番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。 既成のシートに番号・★を追記いただくことでも構いません。 例）【理論編】 ファシリテーション（★）　【実践編】フィールドワーク実習（⑩）
	（1）日系社会における日系日本語学校教師の役割の理解 ● 継承日本語教育と日本語学校（③） （2）継承日本語教育の考え方の理解と実践的技術の向上 ● 継承日本語教育とボランティア活動（⑰） ● 子供の言語発達と日本語教育（⑧） ● 継承日本語教育教材研究（初級）（⑩） ● 中級教材作成と情報活用（⑫） ● 移住学習の実践と方法（⑰） （3）その他ボランティア活動に必要な知識の習得と技術の向上 ● 日本語指導法研究（⑩） ● 技能別指導法研究（⑩） ● 活動課題研究（⑰）

4. 養成・研修の内容	平成 12 年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの ※実施していないものを取り消し線で消してください。（例，~~文明，哲学~~） 追加科目を【　】に記載してください。			
	領域	区分	区分（①～⑯）	内容
	社会・文化地域に関わる領域	社会・文化・地域	①世界と日本	歴史，文化，文明，社会，教育，哲学，国際関係，日本事情，日本文学【　】
			②異文化接触	国際協力，文化交流，留学生政策，移民・難民政策，研修生受入政策，外国人児童生徒，帰国児童生徒，地域協力，精神衛生【　】
			③日本語教育の歴史と現状	日本語教育史，言語政策，教員養成，学習者の多様化，教育哲学，学習者の推移，日本語試験，各国語試験，世界各地域の日本語教育事情，日本各地域の日本語教育事情 【 中南米における継承日本語教育 】
		言語と社会	④言語と社会の関係	ことばと文化，社会言語学，社会文化能力，言語接触，言語管理，言語政策，言語社会学，教育哲学，教育社会学，教育制度【　】
			⑤言語使用と社会	言語変種，ジェンダー差・世代差，地域言語，待遇・ポライトネス，言語・非言語行動，コミュニケーション・ストラテジー，地域生活関連情報 【　】
			⑥異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと社会	異文化需要・適応，言語・文化相対主義，自文化（自民族）中心主義，アイデンティティ，多文化主義，異文化間トレランス，言語イデオロギー，言語政策 【　】
		言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解，談話理解，予測・推測能力，記憶，視点，言語学習【　】
			⑧言語習得・発達	幼児言語，習得過程（第一言語・第二言語），中間言語，言語喪失，バイリンガリズム，学習過程，学習者タイプ，学習ストラテジー 【　】
			⑨異文化理解と心理	異文化間心理学，社会的スキル，集団主義，教育心理，日本語の学習・教育の情意的側面 【　】
	教育に関わる領域	言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識，実践的能力，自己点検能力，カリキュラム，コースデザイン，教室活動，教授法，評価法，学習者情報，教育実習，教育環境，地域別・年代別日本語教育法，教育情報，ニーズ分析，誤用分析，教材分析・開発 【　】
			⑪異文化間教育・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育	異文化間教育，多文化教育，国際・比較教育，国際理解教育，コミュニケーション教育，スピーチ・コミュニケーション，異文化コミュニケーション訓練，開発コミュニケーション，異文化マネージメント，異文化心理，教育心理，言語間対照，学習者の権利 【　】
			⑫言語教育と情報	教材開発，教材選択，教育工学，システム工学，統計処理，メディアリテラシー，情報リテラシー，マルチメディア 【　】

	言語に関わる領域	言語	⑬言語の構造一般	一般言語学，世界の諸言語，言語の類型，音声的類型，形態（語彙）的類型，統計的類型，意味論的類型，語用論的類型，音声と文法 【　　】
			⑭日本語の構造	日本語の系統，日本語の構造，音韻体系，形態・語彙体系，文法体系，意味体系，語用論的規範，表記，日本語史 【　　】
			⑮言語研究	理論言語学，応用言語学，情報学，社会言語学，心理言語学，認知言語学，言語地理学，対象言語学，計量言語学，歴史言語学，コミュニケーション学 【　　】
			⑯コミュニケーション能力	受容・理解能力，表出能力，言語運用能力，談話構成能力，議論能力，社会文化能力，対人関係能力，異文化調整能力 【　　】
※3領域5区分以外については，こちらに記載してください。	その他	日系社会	⑰日系日本語学校	ボランティアのあり方、移住学習（移民の歴史等）、課題研究（複式授業や日本的教育価値の導入等）

5. 特徴的な内容	貴団体で養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して，特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら，記載をお願いします。
	特徴としては以下の点があげられる。 ● 中南米の日系社会における継承日本語教育に係る指導が求められる。 ● 主な対象者が年少者である。 ● 言語指導だけでなく、移住に係る学習や日系団体のイベントへの参画を通し、コミュニティの活性化・日本理解を図ることが期待される。 ● 年少者向けの教材作成が求められる。 ● 日本文化指導が求められる。 ● 国語教育が求められるケースがある。 ● 体育・図工・音楽を通じた情操教育が求められる。 ● 言語指導のみならず、日系人年少者のアイデンティティ形成に携わる。

6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力 ※御参考：平成 12 年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添	1）資質　2）知識　3）能力　について平成 12 年報告に示された，下記内容について該当する場合は，□に☑を付けてください。また，活動分野及び役割別の 1）資質　2）知識　3）能力　については，□以下に記載をお願いします。 **1）資質** ☑日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している ☑鋭い言語感覚を有している ☑国際的な活動を行う教育者として，豊かな国際的感覚を有している ☑国際的な活動を行う教育者として，豊かな人間性を備えている □日本語教育の専門家として，自らの職業の専門性を有している □日本語教育の専門家として，自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している ・派遣先の社会の標準的な環境で社会的生活を行う意志を有している **2）知識** ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識 ☑対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識 ☑言語使用に関する知識 ☑言語発達に関する知識 ☑言語の習得過程に関する知識 ☑日本の教育制度に関する知識 ☑日本の歴史・文化事情に関する知識 ☑諸外国の教育制度に関する知識 ☑諸外国に歴史・文化事情に関する知識 ・派遣先社会の事情一般に関する基本的な知識 **3）能力** ☑日本語を正確に理解し的確に運用できる能力 ☑言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力 ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識，対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識，言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力 ☑学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等を分析する能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力 ・派遣先の社会において社会的生活をすることができる能力

7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準	● 講義内容について専門的な知見を有すること。
8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果	● 中南米における継承日本語教育の歴史や現状を理解できる。 ● JICA の継承日本語教育におけるボランティアのあり方について理解できる。 ● 子供の成長と言語発達の果たす役割や問題点について理解できる。 ● 中南米の年少者向けに作成された教材について理解し、教材作成のポイントについても理解できる。 ● 移住学習をとおした日本語教育の方法を考察できる。 ● 日本語指導力、人的ネットワークを構築する力、情報収集能力を向上させることができる。
9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題（改善を検討したい点）と展望	
10. その他 （人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら，記載してください。）	

資料３－５

日本語教育人材の養成・研修に関する概要

【Ⅰ】活動分野 ： 国内 ・ 海外

日本語教育の対象者： 外国人全般

【Ⅱ】日本語教育人材の役割 ： 日本語指導者 ・ 日本語指導補助者 ・ コーディネーター

【Ⅲ】人材養成・研修の概要

1. 機関・団体	名称：独立行政法人国際協力機構
	主な日本語教育事業 〇青年海外協力隊 〇シニア海外ボランティア
2. 養成・研修概要	1）研修・講座の名称： JICA 青年海外協力隊日本語教育分野技術補完研修 集合研修と個別研修の2つがある。
	2）研修の目的及び育成しようとしている人物像： 開発途上国の技術支援を必要としている日本語教育機関に配属されて、要請内容に応じて自立的に活動し、授業担当・コース運営・現地教師の教授活動や教授法学習のサポート・日本文化紹介・日本人との交流活動の企画と実施などができるようになる。
	3）研修対象・受講資格： 青年海外協力隊の選考に合格していること。個別研修は合格者の中で教授経験不足を教育実習によって補うべきだと技術専門委員（選考委員）が特に判断した者のみ。
	4）受講方法：通学
	5）研修実施時期及び期間：集合研修：年2回，9 月・3 月開講，7 日間、個別研修:年 2 回，11 月・5 月開講，6 週間
	6）研修実施時間数：（集合)35 時間/（個別）145 時間
	7）受講料： JICA 負担
	8）教育実習・実践演習等の有無：有 40.5 時間（個別のみ）
	9）修了要件： 原則として全課程に参加していること。
	10）評価及び認定の方法：出欠及びレポート提出の確認により判断。
	11）受講修了者の進路（活動分野）： 日本語教育ボランティアとして開発途上国の教育機関に派遣される。
3. 養成・研修の科目一覧	科目（指導項目）一覧を記載してください。その際，次ページの平成１２年「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の区分①～⑯のどこに該当する（もしくは内容的に近い）か，番号を記載してください。当てはまらない場合は★を記載してください。 既成のシートに番号・★を追記いただくことでも構いません。 例）【理論編】 ファシリテーション（★） 【実践編】フィールドワーク実習（⑩）
	集合研修：別添資料を参照（資料内に番号を追記） 個別研修：別添資料を参照（研修内容のすべてが⑩に該当）

資料３－５

4. 養成・研修の内容	平成 12 年の「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に含まれるもの ※実施していないものを取り消し線で消してください。（例，~~文明，哲学~~） 追加科目を【　】に記載してください。			
	領域	区分	区分（①～⑯）	内容
、	社会・文化地域に関わる領域	社会・文化・地域	① ~~世界と日本~~	~~歴史，文化，文明，社会、教育，哲学，国際関係，日本事情，日本文学~~【　】
			② 異文化接触	国際協力，~~文化交流，留学生政策，移民・難民政策，研修生受入政策，外国人児童生徒，帰国児童生徒，地域協力，精神衛生~~【　】
			③ 日本語教育の歴史と現状	日本語教育史，言語政策，教員養成，学習者の多様化，教育哲学，学習者の推移，日本語試験，各国語試験，世界各地域の日本語教育事情，日本各地域の日本語教育事情【　】
		言語と社会	④言語と社会の関係	ことばと文化，社会言語学，社会文化能力，言語接触，言語管理，言語政策，言語社会学，教育哲学，教育社会学，教育制度【　】
			④ 言語使用と社会	言語変種，ジェンダー差・世代差，地域言語，待遇・ポライトネス，言語・非言語行動，コミュニケーション・ストラテジー，地域生活関連情報【　】
			⑥異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと社会	異文化需要・適応，言語・文化相対主義，自文化（自民族）中心主義，アイデンティティ，多文化主義，異文化間トレランス，言語イデオロギー，言語政策【　】
		言語と心理	⑦言語理解の過程	言語理解，談話理解，予測・推測能力，記憶，視点，言語学習【　】
			⑧言語習得・発達	~~幼児言語~~，習得過程（第一言語・第二言語），中間言語，言語喪失，バイリンガリズム，学習過程，学習者タイプ，学習ストラテジー【　】
			⑨異文化理解と心理	異文化間心理学，社会的スキル，集団主義，教育心理，日本語の学習・教育の情意的側面【　】
	教育に関わる領域	言語と教育	⑩言語教育法・実習	実践的知識，実践的能力，自己点検能力，カリキュラム，コースデザイン，教室活動，教授法，評価法，学習者情報，教育実習，教育環境，地域別・年代別日本語教育法，教育情報，ニーズ分析，誤用分析，教材分析・開発【　】
			⑪異文化間教育・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育	異文化間教育，多文化教育，国際・比較教育，国際理解教育，コミュニケーション教育，スピーチ・コミュニケーション，異文化コミュニケーション訓練，開発コミュニケーション，異文化マネージメント，異文化心理，教育心理，言語間対照，学習者の権利【　】
			⑫言語教育と情報	教材開発，教材選択，~~教育工学，システム工学，統計処理，メディアリテラシー，情報リテラシー，~~マルチメディア【　】

	言語に関わる領域	言語	⑬言語の構造一般	~~一般言語学~~，世界の諸言語，言語の類型，音声的類型，形態（語彙）的類型，~~統計的類型~~，意味論的類型，語用論的類型，音声と文法 【　　】
			⑭日本語の構造	~~日本語の系統，~~日本語の構造，音韻体系，形態・語彙体系，文法体系，意味体系，語用論的規範，表記，~~日本語史~~ 【　　】
			⑮~~言語研究~~	~~理論言語学，応用言語学，情報学，社会言語学，心理言語学，認知言語学，言語地理学，対象言語学，計量言語学，歴史言語学，コミュニケーション学~~ 【　　】
			⑯~~コミュニケーション能力~~	~~受容・理解能力，表出能力，言語運用能力，談話構成能力，議論能力，社会文化能力，対人関係能力，異文化調整能力~~ 【　　】
※3領域5区分以外については，こちらに記載してください。	その他	【　】	【　　】	なし

5. 特徴的な内容	貴団体で養成する日本語教育人材の活動分野及び役割に対して，特徴的な内容や近年の変化・変遷がありましたら，記載をお願いします。
	特徴的な内容： 日本語教育人材として基本的な知識・技能を身に付けている人を対象にして、開発途上国の教育事情に配慮した技術支援をするうえで必要不可欠になる知識と技能、および、国際協力活動に参加する人に求められる観点を学ぶ機会を提供すること。

資料３－５

6. 育成する日本語教育人材に求められる資質・知識・能力 ※御参考：平成 12 年「日本語教育のための教員養成について」の「日本語教員として望まれる資質・能力」別添	1）資質　2）知識　3）能力　について平成 12 年報告に示された，下記内容について該当する場合は，□に☑を付けてください。また，活動分野及び役割別の 1）資質　2）知識　3）能力　については，□以下に記載をお願いします。 **1）資質** ☑日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している ☑鋭い言語感覚を有している ☑国際的な活動を行う教育者として，豊かな国際的感覚を有している ☑国際的な活動を行う教育者として，豊かな人間性を備えている ☑日本語教育の専門家として，自らの職業の専門性を有している ☑日本語教育の専門家として，自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している ・派遣先の社会の標準的な環境で社会的生活を行う意志を有している **2）知識** ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識 ☑対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識 ☑言語使用に関する知識 ☑言語発達に関する知識 ☑言語の習得過程に関する知識 ☑日本の教育制度に関する知識 ☑日本の歴史・文化事情に関する知識 ☑諸外国の教育制度に関する知識 ☑諸外国に歴史・文化事情に関する知識 ・派遣先社会の事情一般に関する基本的な知識 **3）能力** ☑日本語を正確に理解し的確に運用できる能力 ☑言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力 ☑外国語や学習者の母語（第一言語）に関する知識，対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知 　識，言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力 ☑学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等を分析する能力 ☑教育課程の編成，授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力 ・派遣先の社会において社会的生活をすることができる能力

資料３－５

7. 養成・研修を担当する講師の資格要件や選定基準	講義内容について専門的な知見を有すること。
8. 現行の養成・研修プログラムの実施による成果・効果	ボランティア候補者への動機づけを明確に行えていること。 ボランティア候補者に身に付けてほしい知識や技能に関して確認ができ、身についていない場合には補えること。 共同作業をとおして研修生同士、同期の意識が生まれ、その後の活動において相互に助け合えるような関係づくりができること。
9. 現行の養成・研修プログラムにおける課題（改善を検討したい点）と展望	世界情勢や派遣国事情の変化に応じた研修内容の見直しを常に行うこと。
10. その他 （人材養成・研修に関する御意見・御要望などありましたら，記載してください。）	なし。

日系継承教育（教師育成Ⅰ） カリキュラム

領域	分野	科目名	時間数			備考	番号
			講義・実習	視察・その他	合計		
ことばとこども	こどもの言語習得と人格形成	子どもの発達と教育	9		9		⑧
		小計	9	0	9		
ことばの教育	日本語授業の研究	一般教授法	45		45	実習：10H	⑩
		年少教授法	21		21	実習：7H	⑩
		年少者のための教室活動	12		12	実習：6H	⑧、⑩
		日本語学校見学		6	6		③
	技能別指導法	教具・教材論	12		12		⑩
		年少者向け漢字指導法	9		9		⑧、⑩
		音声学	9		9		⑬
		線画と絵の指導	9		9		⑩
		コンピュータ活用法	12		12		⑫
		小計	129	6	135		
こどもと文化活動	日本語学校と文化活動	行事と工作	12		12		⑰
		音楽	9		9		⑰
		子どもと学校文化		6	6		⑰
	日本文化の体験・学習	日本伝統文化	12		12		①
		日本の歴史	6		6		①
		日本文化研究	3		3		①
		日本伝統文化現地視察		12	12		①
		研修旅行		24	24		①
		小計	42	42	84		
継承語教育と地域・社会	日系社会にとっての日本語教育と日本語学校の意義	日系社会と日系ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ	6		6		⑰
		継承日本語教育の実践と方法	12		12		③、⑰
		小計	18	0	18		
個別研究	本邦研修を受けるための構えづくりと各自の課題の確認をする	経験交流と教師研修	6		6		★、⑰
		問題・課題解決手法	3		3		★
		個別研究	30		30		⑩
		小計	39	0	39		
その他		プログラムオリエンテーション		3	3		★
		ジョブレポート発表会		3	3		★
		研修報告会		3	3		★
		レポート作成		21	21		★
		評価会・閉講式		3	3		★
		小計	0	33	33		
合計時間数			237	81	318	318時間	

53日間

日系継承教育（教師育成Ⅱ） カリキュラム

領域	分野	科目名	時間数			備考	番号
			講義・実習	視察・その他	合計		
ことばとこども	子どもの言語習得と人格形成	言語発達と日本語教育	9		9		⑧
		小計	**9**	**0**	**9**		
ことばの教育	日本語授業の研究	一般教授法	48		48	実習：9H	⑩
		年少教授法	27		27	実習：8H	⑩
		日本語学校見学		6	6		③
	技能別指導法	聴解・視聴覚教材と教授法	12		12		⑩
		コンピュータ活用法	12		12		⑫
		プレゼンテーション技法	12		12		★
		口頭表現と音声	9		9		⑬
		年少者向け漢字指導法	9		9		⑧
		線画と絵の指導	9		9		⑩
		現代日本事情	3		3		①
		ポップカルチャー論		6	6		①
		小計	**141**	**12**	**153**		
こどもと文化活動	日本語学校と文化活動	子どもと学校文化		6	6		⑰
	日本文化の体験・学習	日本伝統文化	30		30		①
		日本伝統文化現地視察		12	12		①
		日本文化研究	3		3		①
		研修旅行		24	24		①
		小計	**33**	**42**	**75**		
継承語と地域・社会	日系社会にとっての日本語教育と日本語学校の意義について考える	日系社会と日系ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ	9		9		⑰
		継承日本語教育論	12		12		③、⑰
		小計	**21**	**0**	**21**		
個別研究	本邦研修を受けるための構えづくりと各自の課題の確認をする	経験交流と教師研修	6		6		★、⑰
		問題・課題解決手法	3		3		★
		個別研究	30		30		⑩
		小計	**39**	**0**	**39**		
その他		プログラムオリエンテーション		3	3		★
		ジョブレポート発表会		3	3		★
		研修報告会		3	3		★
		レポート作成		21	21		★
		評価会・閉講式		3	3		★
		小計	**0**	**33**	**33**		
合計時間数			**243**	**87**	**330**	330時間	

55日間

日系継承教育（指導者育成） カリキュラム

科目名	時間数			備考	番号
	講義・実習	視察・その他	合計		
バイリンガル教育論	9		9		⑧
経験交流と教師研修	6		6		★、⑰
継承日本語教育論	6		6		③、⑰
教師養成論	6		6		★
年少日本語教育論	6		6		⑧
コースデザイン論	6		6		⑩
カリキュラムを考える	9		9		⑩
現代日本事情	6		6		①
ファシリテーション基礎講座	6		6		★
文書作成論	12		12		⑩
専門講義論	36		36	実習：10H	⑯
養成講座論	30		30		⑯
プレゼンテーション技法	12		12	実習：6H	★
所外研修		12	12		①
個別研究	12		12		⑩
プログラムオリエンテーション		3	3		★
ジョブレポート発表会		3	3		★
研修報告会		3	3		★
レポート作成		12	12		★
評価会・閉講式		3	3		★
合計時間数	**162**	**36**	**198**	198時間	

33日間